

加藤恭子ゼミ 登竜門企画 二十歳の頃

敢為邁進

～Always push the envelope!～

A 班 相馬 西川 深澤

<はじめに>

私たちが**株式会社アデランス**を選んだ理由は、普段テレビでよく見かける機会が多く興味を持ったからです。また、お客様に一番に満足をお届けられる会社だと思ったからです。そして、**営業企画部 部長 伴仲道憲さん**にご協力いただきました。

次に**株式会社サイゼリヤ**を選んだ理由は、食品会社に興味があり、低価格で料理を提供し、売り上げを伸ばしている経営戦略に関心を持ったからです。また、自分たちがよく利用するなじみ深いところへインタビューしたかったためです。そして、**組織開発室 採用プロジェクト リクルーター 伊藤謙太さん**にご協力いただきました。

<インタビュー内容>

☆アデランス☆

二十歳のころについて、伴仲さんは入社二年目で後輩ができ、教育係として後輩たちを指導する立場になりました。伴仲さん自身今までより一層仕事に励むようになりました。しかし不公平な評価が半年も続き、一度は退社を決意しましたが、やめるなら結果を残してからやめようと心に決めました。その姿勢が認められ、やがて評価されるようになりました。また、自分の中でやりきったところで決断するという姿勢で物事に取り組むようになり、現在まで壁を切り抜けてくることができたとのことでした。

また、人付き合いのエキスパートである伴仲さんは、第一印象で苦手だと思った人でもできるだけ声をかけて話すようにしているとおっしゃっていました。そうすることで、苦手意識が払拭され良好な人間関係を築くことができるとのことでした。

☆サイゼリヤ☆

二十歳のころについて伊藤さんは当時、大学在学中で部活動の応援団に一番力を入れていたそうです。伊藤さんは今までの人生で物事をやり遂げる経験がありませんでした。大学では何かを最後までやり遂げたいと思い、応援団を最後までやり遂げたそうです。やり遂げたことで、**最後までやり抜く忍耐強さを学びかけがえのない仲間**と出会いました。この経験から**継続すること、チームワーク**が現在に生きているそうです。

また、**人のために 51%**。見返りを求めずに、純粋に人のために何かをすることの大切さを教えていただきました。

<まとめ>

インタビューを踏まえ、お二方の共通点を発見しました。それは、積極的にコミュニケーションを取ること、自己啓発であること、プラス思考であることです。お二方、誰とでも積極的にコミュニケーションを取ることによって良好な人間関係を築いていると思いました。また、自分の意思を相手に伝え、相手を受け入れることで、お互いに意思疎通ができ信頼関係を築くことができます。私たちもこれから積極的にコミュニケーションを取っていきたいです。また、お二方とも自己啓発であり、現状に満足せず、さらに高めへと目標を設定し努力していると感じました。私たちも成長し続けることができるよう向上心を持って頑張っていきたいです。そして、お二方とも何に対してもプラス思考でした。大変なことがあっても弱音を吐かない、前向きに物事をとらえる、一見すると簡単に思える内容ですが意外と難しいことでした。

<最後に>

今回の企画を通して、二十歳の頃という企画はやっているときは大変だと感じる時がありました。しかし、終わった時に感じられる達成感と仲間と切磋琢磨し共有した時間はかけがえのないものとなりました。また、実際に社会で働いている方にお話を伺えたことは私たちにとって貴重な経験であり、自分自身を見直す良い機会となりました。

お忙しい中、私たちのインタビューにご協力して下さったすべての方に心より感謝し、改めて御礼申し上げます。